

「急性経口毒性試験」結果の概要

*** 目的：経口投与した場合の安全性の確認。***

[試験機関] (株)食環境衛生研究所
 [被検物質] オキシリンク-SP(原液) ≡ オキシリンクSPスプレー の600倍濃度
 [供試動物] SPFマウス(雌・5週齢)：「対照区」= 5体、「試験区」= 5体
 [試験内容] 「試験区」の供試動物に設定濃度の被検物質を経口から投与し、
 投与しない「対照区」の供試動物と比較観察することで安全性を検証する。

*** 「試験区」とは、供試動物に被検物質を経口投与する領域。***

*** 「対照区」とは、供試動物に投与しない領域。***

飼育管理：室温 = 23℃±2℃、照明時間 = 12時間(7:00~19:00)

投与濃度：2,000mg/kg (被検物質の質量(mg) / 供試動物の質量(kg))

*** 例えば、体重30gのマウスであれば、60mgのオキシリンク(原液)を投与すること。***

投与方法：経口ゾンデ(投与器)を用いて胃内に単回投与

臨床観察：観察14日間、体重測定3回、解剖(試験終了後)

[試験期間] 2013.06.22 ~ 07.05

[報告作成] 2013.07.29 (試験機関による報告書作成日)

【臨床観察結果】

① 被検物質を投与し、30分後・60分後・120分後・240分後に観察

② 被検物質を投与し、1日後、2日後、3日後、・・・14日後に観察

[経過観察] ① = 異常なし、② = 元気消失、③ = 流涎、④ = 発咳

区分	動物(No.) と 観察所見	投与後経過時間 (備考：与える飼料(固形飼料(5L37))と飲料水(水道水)は、自由摂取させた。)																		
		30分後	60分後	120分後	180分後	240分後	1日後	2日後	3日後	4日後	5日後	6日後	7日後	8日後	9日後	10日後	11日後	12日後	13日後	14日後
対照区	(1)	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	(2)	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	(3)	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	(4)	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	(5)	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
試験区	(6)	②④	②④	②④	②④	②④	④	④	④	④	④	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	(7)	②④	④	④	④	④	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	(8)	②③④	②④	④	④	④	④	④	④	④	④	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	(9)	②④	②④	④	④	④	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	(10)	②③④	②④	④	④	④	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①

[体重観察] 個体ごとの記録 (単位：g)

区分	動物(No.) と 測定体重	試験開始 経過時間		
		0日	7日	14日
対照区	(1)	29.5	31.0	34.5
	(2)	31.0	33.0	35.5
	(3)	29.5	31.0	34.0
	(4)	30.0	32.0	33.5
	(5)	29.0	32.3	33.5
	平均	29.8	31.9	34.2
試験区	(6)	29.5	27.5	33.0
	(7)	30.0	32.5	33.0
	(8)	30.0	32.0	34.0
	(9)	29.0	30.5	31.0
	(10)	29.5	28.0	31.0
	平均	29.6	30.1	32.4

[解剖観察] 個体ごとの所見

区分	動物(No.)	試験終了後の解剖検査所見
対照区	(1)	著大な変化は見られない
	(2)	著大な変化は見られない
	(3)	著大な変化は見られない
	(4)	著大な変化は見られない
	(5)	著大な変化は見られない
試験区	(6)	著大な変化は見られない
	(7)	著大な変化は見られない
	(8)	著大な変化は見られない
	(9)	著大な変化は見られない
	(10)	著大な変化は見られない

この投与濃度においては、投与直後から5日目までは一定の臨床症状が見られるが、それ以降は見られない。試験後の解剖検査においても、著大な変化は見られない。